お中元に・・・・・

白松が水ヨーカン

さらに美味しくなった

水甘納豆

1個　237円

※表示価格は消費税込みです。

店舗限定

直営店／通信販売部／県内デパート／仙台駅おみやげ処2／エスパルモール長町／セラビ幸町／イトーヨーカドー（泉、あけぼの）ヨークベニマル（矢本、小牛田、岩沼、亘理）のみの取扱いとなります。

昭和初期、愛好家の垂涎（すいぜん）の的だった「仙台こけし」とは？

質・量共に日本一のこけしコレクションと評される「仙台こけし洞」と高橋五郎さん。貴重なこけしが3000本以上（要予約。電話022-221-2479）。

天江富弥（前列中央）らによって結成された「仙台小芥子会（せんだいこけしかい）」の会員たち（昭和52年）。

現存する最古のこけし文書「萬挽物扣帳」（よろずひきものひかえちょう）

昭和のはじめ、全国の愛好家が求めてやまないこけしがありました。仙台市八幡町に住んでいた木地師、高橋胞吉（えなきち）【文久1～昭和14】晩年の作品です。哀愁を帯びた伏し目がちな表情が、東京、大阪など都会の人々の心を捉え、「仙台こけし」として人気番付の東の横綱に置かれるほどでした。

その胞吉を見い出したのは、童謡作家で郷土玩具研究家の天江富弥（明治32～昭和59）。同じ八幡町の造り酒屋「天賞」の三男だった富弥は、路地裏で木地を挽く胞吉にこけし作りを依頼。そのできばえに驚きます。昭和3年、こけし専門書「こけし這子（ほうこ）の話」を著し、胞吉こけしも紹介したのです。

富弥の偉業を引き継ぐようにこけし研究に情熱を注ぐ、「仙台郷土玩具の会」会長の高橋五郎さんは、昭和56年、仙台市内の旧家で重要な古文書を発見します。万延元年、作並の伝説的木地師岩松直助が、弟子の小松藤右衛門に与えた免許皆伝書「萬挽物扣帳」（よろずひきものひかえちょう）でした。

胞吉が若き日、職人として働いたのは藤右衛門の弟の仕事場。胞吉こけしが作並につながることを明らかにしたのです。弟子を取らなかった胞吉の死後、その作風は鈴木清（明治30～昭和55）によって再現され、その子昭二、孫の明さん（秋保在住）へと受け継がれています。

（右）胞吉の作風を継承する鈴木昭二の作品

（左）作並こけしの継承者、平賀謙一の作品

一方、作並こけしは、直助の孫弟子、平賀謙蔵（明治20～昭和24）、その子謙次郎、孫の謙一さん、ひ孫の輝幸さんら地元の工人が継承。富弥が残した膨大なコレクションと高橋さんが収集したこけしは、青葉区川内の「仙台こけし洞」（高橋さん自宅）で公開されています。

富弥が残した膨大なコレクションと高橋さんが収集したこけしは、青葉区川内の「仙台こけし洞」（高橋さん自宅）で公開され、長年の研究成果は「癒やしの微笑み 東北こけしの話」（河北新報出版センター刊）として刊行されています。価格1,728円（税込）

（左）高橋胞吉（仙台）の作品。制作数も少なく、わずかしか残っていない。（中・右）平賀謙蔵（作並）の作品

Vol.10

仙台の遺産

バックナンバーは白松がモナカHPにて公開中です

［こけし］

江戸末期頃から、東北の木地師によって作られ、温泉地などで売られた子供の手遊び人形。師匠から弟子へと受け継がれ、各地で特徴的な顔形や模様があり、鳴子系、作並系、遠刈田系、弥治郎系、肘折系など、おもに11の系統がある。素朴な美しさが時代を超えて愛されている。

昭和3年1月、天江富弥が自費出版した「こけし這子の話」。日本初のこけし専門書で、今につながるこけし人気と研究のきっかけとなった。

モナカ・ヨーカンの全国発送を承ります。0120 0120-008-940 ※受付時間は8:00～17:00となっております。http://www.monaka.jp/ 無料配達地域ご案内［直営店受付のみ］仙台・岩沼・名取・多賀城・塩釜（離島を除く）・石巻（旧市内）・大崎（旧古川市内）・札幌